

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	百貨店（売場担当）	来客数の動き	・店を替わり新たにオープンしたショッピングセンターに勤める事になったが、オープン初日と翌日の2日間で12万人の来客数があった。以後も、半径30～40kmの範囲内からの集客があって、週末の来客数は6～7万人になった。店全体の売上額も当初の予想をオーバーしている。
	やや良くなっている	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・5月からのタスポカード導入の影響により客が当店に流れており、引き続き来客数が増加している。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・今月は中旬から下旬にかけて、新規の大型取引店出店が相次いだため、売上は増加している。先月までの値上げの寄与もあり、今月は好調に推移している。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・タスポカードの導入によりたばこの売上が伸びている。それに伴って缶コーヒーなどの売上も伸びている。
	家電量販店（店員）	単価の動き	・ボーナス商戦に入った感じがあり、客の購買意欲が上がって、買上げ単価も上昇している。またオリンピック・地デジも追い風となっている。	
変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・物価の高騰の影響が相当あるものの、ボーナスによる好影響もわずかだが感じられる。私の関与しているクレジットの共同購入組合は、相変わらず普通の伸びである。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	単価の動き	・ここ1年ほど、衝動買いがほとんど見受けられない。客は予算を決めて、きっちり品物を見極めてからでないと買物をしない。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・相変わらずガソリンや食品の値上げが報道されており、消費者の不安感がぬぐえないため、客の来店回数・購入単価共に低下してきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・ここ半年以上、来客数については前年比102%、販売点数については前年比104%とずっと伸び続けている。ただし、諸物価の高騰で、少しずつ販売点数が減少している。売上そのものは、来客数が伸びているため、変わらない状態が続いている。
		スーパー（経営企画）	単価の動き	・既存店売上高と客単価の前年比がほぼ100%で、3か月前と変わらない。
		スーパー（販売担当）	来客数の動き	・広告の内容にもよるのだろうが、来客数が月初めよりも月末に向けて若干減りつつある。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・確かにコンビニエンスストアは、タスポカード効果もあり売上は増加しているが、客の様子から見ると、仕方なく来店している節がある。その客が他の商品に手を伸ばしているかと言えば、期待ほどではない。非常にシビアな買物をしているという実感である。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・6月25日現在販売台数で前年比103.3%となっているが、前年に売上を大きく落としているためであり、厳しさは依然変わらない。
		乗用車販売店（統括）	お客様の様子	・需要期に入ったため、景気が悪いようには感じないが、商談中に、口癖のように「ガソリンが上がった」「食料品が高くなった」という話題になるような状況で、高額な商品は動かない。
		乗用車販売店（サービス担当）	来客数の動き	・新車を見てまわるだけの客も動きが無く、平日は全く来客数がない日もあり、土日でも店頭は寂しいことがある。とにかく店頭で新車購入をすぐ決めるようなことはなく、厳しい状況である。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・現状は前年と同じような予約状況で、特に良くも悪くもない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・客は交通費を節約しようとする意識が強い。特にタクシーは、バスや自転車で代用できるので、節約される状態が続いている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・ボーナスシーズンを迎えるにあたって、原油等物価高の影響をかなりなものと想像していたが、思ったほどは落ち込んでいない。日用品は少し買い控えをしつつも、本当に必要なもの、価格含めて合理的と感じられるものには消費する傾向がある。
		通信会社（総務担当）	お客様の様子	・契約獲得が伸び悩む一方、解約も高水準で推移しており、厳しい状況が続いている。

やや悪くなっている	ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・梅雨入りが他の地区と比べて遅かったのと、日中の雨が少なかったため、当日の予約が例年よりも多かった。結果的に来客数が増加したが、事前の予約数が少なかったため、売上は例年並みである。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・今月新店のオープンに伴い、若干上向き加減になったかと思ったが、石油高騰の影響が、今一つ売上の動きが鈍い。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・最近、客からの問い合わせが少ない。リフォームや新築に対して動きが鈍い。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数・販売量共に非常に落ち込んでいる。ただし、単価は変わっていない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・ガソリンを始め食品の値上げで、客の財布のひもがますます固くなっている。客との会話でも、物価高騰についての話題ばかりで、買い控えというか、消費に慎重になっている姿勢が顕著である。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・少子化・デフレ・オーバーストアの三重苦にあえいでいるが、昨今の原油ガソリン高、食品を中心とした生活必需品の高騰等により、生活防衛のために消費者の購買意欲がますます減退し、めったなことでは物を買わない。非常に厳しい局面である。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・今月に入って、また売上が減少してきている。ますます消費者は「守り」に入ってきている。
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	競争相手の様子	・他の酒店も、飲食店の注文が少ないと嘆いている。ガソリン、食料品関係の値上げが消費者に買い控えや節約意識を与え、無駄な支出を控えているため、街の雰囲気に活気がない。5月6月共に低調である。
	一般小売店（経営者）	競争相手の様子	・まわりの同業者の状況でも、前年に比べて悪いという話が多い。
	一般小売店〔印章〕（営業担当）	お客様の様子	・価格の安い印鑑を求める客が多く、厳しくなっていることがうかがえる。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・春夏物の衣料品の動きが継続して鈍く、実売期に入った水着の売上も伸び悩んでいる。
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・6月に入り再度諸物価が高騰し、より購買姿勢がシビアになっている。特に婦人・紳士を中心としたファッション部門の落ち込みが顕著で、早くからセール待ちが始まるなど、客は価格に対して、今まで以上にシビアになっている。反面、15%OFFと価格メリットのある中元早期受注は大きく数字伸ばした。
	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・3月下旬から4月上旬にかけていったんは持ち直したかに見えた売上高は、その後低迷が続いている。今月もほとんどのテナントが前年同月を大きく割り込んでいる。現在の状況は、3か月前と比べて、平行線からやや下降気味になっている。
	百貨店（購買担当）	お客様の様子	・前年はギフトで、早期の注文にかなり特典や割引を付けたことで6月の注文はかなり上向きだった。今年も同様に割引拡大幅を広げてかなり特典を増やして早期に注文を受け付けたが、前年割れという状況である。ギフトに対しても購入数や購入価格がよりシビアになっている。また、衣料品関係についても、買い控えだけでなく良いのだが、本当に必要な物しか購入しないという状況は相変わらずで、衣料品関係は低迷している。
	百貨店（売場担当）	来客数の動き	・今月も近隣に大型ショッピングセンターがオープンし、月初は招待会強化などでしのいできたが、来客数などで中旬以降ポディブロー的にじわじわと影響が出始めた。
	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・この春のリニューアル後好調に推移してきた売場も、今月は前年を割り込んでいる。また、依然として紳士・婦人共に衣料品が低迷している。
スーパー（店長）	それ以外	・商品の価格値上げなどが続き、消費の減退に大きく影響している。さらに、公共事業の削減による建設業の倒産や廃業、人員整理、また原材料・配送コストの高騰による中小卸売業の倒産などが続いている。	
スーパー（店長）	お客様の様子	・食料品の値上げの影響と思われるが、1人当たりの買上げ点数がかなり減少している。購買意欲がなかなかかわかず、かなり買い控えがある。	

スーパー（店長）	お客様の様子	・購買自体を控える客が増加している一方で、高品質・高単価の物を求める客も増加の傾向にある。客単価は上昇したが来客数が減少し、全体的に言えば厳しい状況である。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・次から次とあらゆる物が値上がりし、自社のアンケートに「2日に1回来ていたけど3日に一度にしている、ガソリンも上がったしね」との声があり、それも1割2割でなく8割9割の人が来店する回数を減らしたと記入した。アンケートの回答同様、1回当たりの客単価や点数は上がったものの来客数が落ちている。
スーパー（経理担当）	お客様の様子	・消費うんぬんよりも、建設業等の倒産が出始めて、地域全体に暗い雰囲気が漂っている。
スーパー（財務担当）	販売量の動き	・価格の上昇及び無駄な物の節約のためか、買上げ点数が減少している。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・客は製造者（場所）・定価・バリューを以前より一層注意している。原材料高騰・産地偽装などに対して敏感になっていることが、消費の冷え込みにつながらないか懸念される。
衣料品専門店（地域ブロック長）	競争相手の様子	・地域の大規模ショッピングセンターの改装後、来客数が減少している。
家電量販店（店長）	お客様の様子	・客との会話の中で、「先行き不透明」「物価上昇でなるべく貯蓄に回す」という話が非常に多い。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・白物家電商品については、平均単価がだいぶ下がってきている。今後もこの傾向は続く。
家電量販店（予算担当）	販売量の動き	・ガソリン代の高騰や食料品の値上げなどが続くためか、消費に強さが全く感じられない。「給料は上がらなくても物価は下がるもの」という感覚が通用しなくなっている。北京オリンピックも今ひとつ盛り上がり欠けており、一方で気温も上がらず、季節関連の商品もまだ大きく動いていない。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・自動車の商談の時に、燃料高騰の話が奥様方から強く出て商談が長引いている。また、値引きの要求が非常に強くなっている。
自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・来客数の推移が5月のゴールデンウィーク以降前年度を下回る日が多く、特に土日の来客数が減少している。またオイル交換の件数が落ちてきている。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は雨が多かったために来客数はやや減少した。月末に近づくと幸い雨が少なくなったり持ち直している。
一般レストラン（店長）	お客様の様子	・一部商品の値上げをして1か月たったが、客が「仕方ないよね」と言いながら、暗い表情をしているのを目の当たりにしている。
スナック（経営者）	それ以外	・組合の会員店をまわってみても、どこも良くないという話である。ボーナスが出たらという期待はある。
その他飲食[ハンバーガー]（経営者）	来客数の動き	・前年度の状況が良すぎたのか、来客数、単価共に先月より悪化傾向にある。
都市型ホテル（従業員）	来客数の動き	・レストラン、宴会、宿泊共に、前年に比べやや悪化している。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宴会に関しては、前年に比べ客単価が低下しており、利用人数も少なくなっている。原因としては物価高による経費の削減がホテルでの出費を抑えていることと、他の飲食店が低価格で打ち出しているため、客が移っているものと思われる。
タクシー運転手	お客様の様子	・乗客との会話の中で、先行き不安という声が多い。内容的には、年金・介護・ガソリン価格等である。車をやめて自転車にするという声も聞く。タクシーの運転手を30年しているが、これほど不安や景気が悪いという言葉は聞くのは初めてである。
タクシー運転手	お客様の様子	・6月は日中の客の利用が低下している。夜の繁華街についても非常に少なく、通常であれば週末の金・土はにぎわうのだが、前半は寂しく月末25日以降のみ顕著ににぎわうという月1回ペースになっている。観光については若干仕事が入ってくるが、長距離や2泊3日というような滞在は少ない。
テーマパーク（財務担当）	来客数の動き	・6月は閑散期であるが、平日は学校団体を中心に平年並みであるのに対して、個人客中心の土・日の客数の減少が目立つ。

	テーマパーク (広報担当)	来客数の動き	・この時期は行楽シーズンの端境期で地元の客が中心となるが、6月に入って建設・土木関係の地元企業の倒産が相次いだこともあり、地元客が激減している。
	テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・3月ごろから気温の低い日が続いた異常気象により、初夏の売りにしていた植物の生育が良くない状態で、来客数も前年比ではやや悪くなっている。また、このところ続いている物価高の影響がじわじわと出てきている。
	設計事務所(経営者)	競争相手の様子	・老舗同業者の廃業、倒産件数の増加、売上の減少、金融の貸出し停止など何一つ良い話題がない。
	設計事務所(経営者)	単価の動き	・建築物価の高騰が著しく、いくつかの建築計画が中断してしまった。
	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注量が1割減となっており、受注金額も減少傾向にある。
	住宅販売会社 (販売担当)	来客数の動き	・展示場、イベントへの新規来客数の前年比減が、春以降続いている。
	住宅販売会社 (経理担当)	それ以外	・他社の動きや、金利上昇、金融機関の厳格化など全てが厳しくなっている。
悪く なっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・商店街への来客数や各店の販売数など減少している。高齢化により今後期待される業種でも、異業種からの参入があり、価格が下がり、乱売状態になっている。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・相変わらず近隣市で大型郊外店の出店が相次ぎ、土・日になるとそちらに客を取られている。
	商店街(代表者)	それ以外	・原油高や穀物の高騰により原材料が上がり、食堂関係の店舗が苦戦をしている。先行きをみても、落ち着く気配がなく不安だけである。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・物価が上昇し、必需品以外買わなくなっている。
	一般小売店〔紙類〕(経営者)	販売量の動き	・来客数は多いが、購買力が非常に落ちており、販売量がかなり悪くなっている。
	百貨店(営業担当)	来客数の動き	・折込み広告やテレビCMなどで来店強化を図っているが、訴求効果が続かない。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・近年にない厳しさで売上は前年比90%を割った。対策として先行的なクリアランスに6月末から入ったが、初日の一瞬の盛り上がりで、2日目以降は前年割れで推移している。季節商材の動きが特に悪く、長く定番的に使える商品への関心度が高く、数字が今一歩である。
	百貨店(売場担当)	販売量の動き	・催事の来客も少なく、無理をして買物をしない買い控えが目立つ。
	コンビニ(エリア担当)	それ以外	・原油の値上げに伴い、それに付随して商品も値上がりし、消費意欲が落ち込んでいる。
	衣料品専門店 (地域ブロック長)	単価の動き	・先月に比べ一品単価が前年を大幅に下回る傾向が続いている。これから先、売出しも終わり閑散期に入っていくので、客単価が伸びるような動きは生まれにくい。
	衣料品専門店 (販売促進担当)	来客数の動き	・今月はDM(ダイレクトメール)を出した客の反応はいいが、その他の一般客の来客が少ない。DMは割引があるため、買上げ単価も下がり、当然売上もダウンで、苦戦の月である。
	住関連専門店 (広告企画担当)	お客様の様子	・客は購入決定までとても慎重である。できるだけお金を使いたくないという雰囲気が強い。
	その他専門店 〔時計〕(経営者)	来客数の動き	・今月に入り、地金高騰の影響のためか、食料を含めた日用品の高騰のためか、買い控え感があり、高額品を買い求める客の来店が少ない。
	その他専門店 〔布地〕(経営者)	来客数の動き	・生活関連商品が値上がりしたためか、一般商品の売行きが良くない。来客数も昨年6月よりも非常に少なくなっている。
	その他専門店 〔カメラ〕(店長)	来客数の動き	・前から厳しかったが4月から急激に来客数が減少し、主力商品であるプリントの落ち込みがひどくなった。
一般レストラン (店長)	来客数の動き	・誕生日や結婚記念日等のイベントやお祝い事の時の来店はあるが、平日の来客数が前年比で減少している。	
観光型ホテル (経理総務担当)	販売量の動き	・地元客が主体のラウンジの落ち込みが目立つ。6月からスタートした、ビアガーデンの入込みも芳しくない。	

		都市型ホテル (総務担当)	販売量の動き	・重油高騰による燃料サーチャージへの上乗せや、外国人を対象とした日本への入国旅行の催行中止が響いており、全体的に客が動かない月となり、宿泊、販売共に影響があった。
		旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・燃料高騰になり、まず海外旅行が減った。大学内の店などで、既にゼミ旅行などの海外から国内への変更依頼が出ている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・閑散期が終わりこれから忙しくなってほしいのだが、運行回数が落ちている。
		通信会社(総務担当)	販売量の動き	・販売数が伸びない、消費意欲の低迷が懸念される。
		美容室(経営者)	競争相手の様子	・同業者の店長が集まって話をしても、この2~3か月は今までになく売上が落ち込んでいて大変だという話だった。
企業動向 関連	良くなっている			
	やや良くなっている	不動産業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・来客数、成約件数が増加している。
	変わらない	農林水産業(従業者)	それ以外	・今月と3か月前を比較すると、大中型巻き網船・地元中型巻き網船が増加したため、水揚数量で1,200tの増加、水揚金額も3億5,600万円の増加となった。今月単月の前年比では水揚数量で399tの増加、率で121.3%。反面、水揚金額では700万円の減少、率で99.0%である。水揚数量の増加理由は大中型巻き網船・イカ釣り船が増加したためである。水揚金額の減少理由は沖合底引き船が減少したためである。
		鉄鋼業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・ここにきて、国内の受注の勢いが止まり、踊り場の状況になってきている。客の先行き不透明感が強まったこと、在庫が増えてきていることが影響している。
		金属製品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は多く、フル生産で対応している。特に、大型部品の受注は好調である。小物部品の受注がやや低下してきているものの、総じて受注量は高水準にある。
		電気機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・好調な受注を維持してきた自動車関連が、原油高から米国向けトラックの販売不振で受注が低下傾向となっている。携帯関連も新モデルは出ているものの、受注増加には至っていない。
		輸送用機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・クライアントである地元自動車メーカーが、春先から若干低迷気味ではあるが、受注量は変わらない状況が続いている。
		通信業(営業企画担当)	受注価格や販売価格の動き	・商品メニューや価格も昨年来あまり変化がなく、新規受注の呼び水に乏しいこともあり、法人向け通信サービスの受注停滞は変わらない。F T T H(光ファイバーによる家庭向けのデータ通信サービス)の伸びも鈍化しており、通信サービス全体が冷えた状況にある。
		金融業(業界情報担当)	取引先の様子	・主要受注先では北米向けは景気低迷から輸出が減少しているが、アジア向け輸出が依然として好調で、受注全体では高い水準を維持している。
		やや悪くなっている	食料品製造業(総務担当)	それ以外
		繊維工業(統括担当)	受注量や販売量の動き	・景気の影響や気候の影響で、夏物の数量が伸びない。
		化学工業(総務担当)	受注価格や販売価格の動き	・仕入商品の値上げ要請が厳しい。また、相変わらず燃料費の高騰による影響も厳しい。
		窯業・土石製品製造業(総務経理担当)	受注量や販売量の動き	・新規案件の引き合いが少なく、大口案件の生産の谷間で生産水準は低調である。原材料の価格高騰の影響が大きく、収益面でも厳しい。
		一般機械器具製造業(経営企画担当)	受注量や販売量の動き	・展示会を開催したが、客の出足が悪く、また購入意欲も見受けられなかった。売上も伸びず、厳しい状況である。
		その他製造業[スポーツ用品](総務担当)	受注量や販売量の動き	・前月に引き続き材料等が値上がりしており、収益を圧迫している。

	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 建築確認の遅れによる仕事量の落ち込みが、ある程度回復すると期待していたが、地域の状況は悪いままである。また、燃料等の高騰によるコストアップが大きく影響し、せっかくとった案件も全く利益が出ない状況である。	
	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ 建設業の受注は、公共事業の減少、民間工事の手控えにより期待できない状況にある。今年になってアメリカ景気の後退、商品市況の上昇が企業収益の悪化に拍車をかけ、春闘での賃上げ交渉も大幅なものとならず、個人消費も先行き不安から停滞しており、景気そのものが少し悪化の方向に進んでおり、厳しさを増している。	
	輸送業（統括）	競争相手の様子	・ 同業者が当社の客に対しアプローチしており、客の取り合いとなって、更には値引き競争となってきた。	
	輸送業（運送担当）	取引先の様子	・ 更なる原油価格の高騰により、明らかに運送業者の物量が減少している。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・ 公共工事が無いのは相変わらずである。出たとしても、7掛けというのが相場となっていて、現場経費は出ても本社経費が出ず、トータルで赤字という状況が続いている。また、原油・ガソリン代が値上がりし、運送会社では月当たり1,000万円以上経費が増加している。	
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・ 4月以降、製造業の業績の落ち込みが目立つ。単価の切下げはシビアに迫られ、受注量の大幅な減少で、当面の売上高確保をコスト管理よりも優先させなければならない状態のところもある。また、いったん受けた受注を一部取り消された事業所もある。	
	悪くなっている	コピーサービス業（管理担当）	取引先の様子 ・ 客からの引き合い件数が少なく内容も少量である。	
雇用 関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	-	-	
	変わらない	求人情報誌製作会社（担当者）	採用者数の動き	・ 合同企業説明会の問い合わせの件数が、若干落ち着いた。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（支社長）	周辺企業の様子	・ 求人数が減少傾向にある。
		人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・ 派遣から正社員登用となる紹介予定派遣の件数が前年と比較して6割程度と、企業の正社員採用意欲が落ちている。また派遣スタッフとして勤務していて、途中から正社員として採用されるケースも前年と比較して8割程度と、こちらも低い数字が出ている。
		求人情報誌製作会社（支店長）	周辺企業の様子	・ 原価高騰により今期減益予測となり、採用意欲も低下傾向である。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 求人は、建設業、卸売・小売業、サービス業での減少が著しく、件数・求人数ともに減少した。原油・原材料価格の高騰で収益が圧迫されている状況のなか、中小企業を中心に先行きの不透明さが深刻化している。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・ 原油高による漁業の不振の影響で、人員整理をした造船業や、公共投資の削減による受注減のため人員整理をした建設コンサルタント、建設業など、景気の変動による人員整理件数が増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・ 求人は減少傾向にあり、それに伴って正社員求人も減少している。ただしパート求人の減少はそれほど目立たない。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・ 新規・有効求人数共にほとんどの産業で前年を下回る状況が続いている。特に小規模・零細企業における求人意欲の落ち込みが懸念される。
	民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・ 求人は間違いなくあるのだが、同じ求人でも採用基準を一年くらい前と比較すると上げているので、安定した正規雇用者の増加が望めない。	
	悪くなっている	-	-	